

令和2年度 奈良県スポーツ推進審議会定例会 議事録

- 1 開催日時 令和3年2月4日(木) 14:00~16:00
- 2 開催場所 奈良県コンベンションセンター 107・108 会議室(WEB)
- 3 出席委員 佐久間会長、根木副会長、朝原委員、伊藤委員、千葉委員、
福西委員、松下委員
(以下、WEBでの出席)
田中委員、蝶間林委員、並河委員、増本委員、松永委員、
山口委員
- 4 欠席委員 尾崎委員、川手委員

〔司会〕

それではただ今から令和2年度奈良県スポーツ推進審議会定例会を開催させていただきます。今会議の進行は奈良県スポーツ振興課椋本が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。本日は新型コロナウイルス感染防止対策として当会会場及びWEBでの開催とさせていただきます。会議時間については1時間30分の設定とさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

それでは開会に際しまして奈良県文化・教育・暮らし創造部長の吉田より、一言ご挨拶申し上げます。

〔吉田部長〕

皆さんこんにちは。大変お忙しい中、スポーツ推進審議会にお集まりご出席いただきましてありがとうございます。またリモートでご参加いただいている委員の皆様方、本日はどうぞよろしくお願いいたします。実は昨年4月に県庁のほうで組織改正がございまして新しく、文化・教育・暮らし創造部というものが設置されました。文化振興、文化財の保存と活用などの文化政策と教育振興、そして旧来の暮らし創造部がくっついた形でございます。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症でございますが、約1年前に奈良県で感染者がでてから約1年が経過したわけでございます。全国で40万人余りの方が感染されたわけでございますけれども、本県におきましても3000余りの方がこれまで感染されております。現在も入院されてる方がおられるわけですが、県におきましては、出来るだけ早期に発見して早期に隔離、入院あるいは療養施設に入っただこうという方針のもとで取り組んでおりまして、自宅での療養といった措置は、原則としてとっておらないわけでございます。引き続きこのような対策をこうじてまいりたいというふうに考えてございます。今月になりまして、ワクチンの接種推進班を県庁で設置させていただきました。医療関係者、あるいは

市町村と連携しながら、出来るだけスムーズにワクチンの接種に努めていきたいと現在取り組んでいるところでございます。

とはいうものの、まだまだ感染が治まらない状況でございますけれども、今年になって奈良県にとっては少し明るいニュースというものもあります。スポーツの世界でいいますと、天理大学が初めて大学ラグビーで全国一、日本一になりました。関西勢としては36年ぶりということでございます。多くの県民に感動、勇気を与えていただきまして、改めてスポーツの持つ力を認識したところでございます。このような中、また先日は、来月から始まります全国選抜高校野球大会に本県からも天理高校と智辯学園の2校が選ばれました。全国大会での活躍を大いに期待したいものでございます。

今年はオリンピックの年でございます。アスリートが活躍する姿を見たいというふうな思いもあります。先日は奈良県に聖火の火がやってまいりました。全国巡回展示をするということで、5日間で7カ所、聖火展示をさせていただきました。このような状況ですであまり大きくPRもしなかったわけでございますけれども、5日間で延べ4500人余りの方が、見ていただいたり、写真を撮っていただいたりしました。来られている方と少し話しをしますと、非常に今度の聖火を楽しみにされている方も多くおられまして、高齢者の方からは前回のオリンピックの聖火の火も見に行ったんだという話も聞かせていただきました。改めて、スポーツの持つ力というものをここで再認識したというところでございます。

このような中、本県におきましては、実は令和13年、2031年に国民スポーツ大会をやろうということで、昨年内々定をいただきました。今から10年後になります。10年後といいますが、色々なことをそれまでの間に整理すべきことが沢山ございますので、土台となるような基本的な計画、考えを今年取り組んでいきたいと考えています。そういった中で委員の皆さま方から、各方面からのいろんな御意見を頂戴しながら次に繋げたいと思っております。限られた時間ですが俯瞰のない意見をいただければと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

〔司会〕

会議資料、次第等の説明、委員の紹介、審議会条例説明及び議事録等の公開について説明

〔司会〕

それでは議事に入る前に会長を選出したいと思います。審議会規則第3条の規定に基づき、委員の互選により会長を選出することとなっております。委員の皆様いかがでしょうか。

〔松下委員〕

松下でございます。当会が2年間開催されないこと、また、豊富な経験をお持ちであるということ踏まえまして佐久間委員に会長をお願いしたいと考えますがいかがでしょうか。

〔司会〕

皆様よろしいでしょうか。

(はいよろしく申し上げます)

それでは佐久間委員、会長のお引き受けをいただきますでしょうか。

〔佐久間委員〕

はい、ご指名ありがとうございます。よろしくお願いいいたします。

〔司会〕

それでは佐久間会長からご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいいたします。

〔佐久間会長〕

改めまして皆様こんにちは。本日はコロナの影響でやや変則的な定例会でございますけれども、本会場だけでなく WEB を通じて活発的なご意見等を頂戴できればと思います。

さて、思いおこしてみれば途中、平成 29 年度の見直しがあったものの 10 ヶ年のスポーツ推進計画を残すところ、後 2 年になりました。「いきいきと安心して健やかに暮らせる健康長寿の奈良県」といった基本理念、あるいは目指す姿、実現するための、「だれもがいつでもどこでもスポーツに楽しめる環境づくり」を基本目標として、①総合型地域スポーツクラブによる地域スポーツの推進等、②ライフスタイルも含めまして、それから③障害者スポーツの推進、④スポーツを支える環境づくりといった 4 大政策に基づきまして、様々な取組を展開してまいりました。これまでの成果をふまえて、残された課題等についてご意見いただければと思っております。

この 10 年間さらに振り返ってみますと奈良マラソンの成功と、その発展等、多様な成功を納めておりました。また、東京オリンピック・パラリンピック誘致成功のあの当時の熱気、それからラグビーワールドカップの感動、その勢いにのって本来ならば昨年、東京オリンピック・パラリンピックの開催に繋がる予定でしたが、まさに想定外の世界的新型コロナウイルス感染の拡大によりまして、本年の開催予定となりました。私の専門であります、スポーツの持つ意義とか価値をもっともっと普及させていきたいと思っております。そして、開催出来ること心から願っております。

前置きが長くなりましたが、本題に入っていきたいと思っております。

〔司会〕

それでは佐久間会長の進行により副会長の選出をお願いいたします。

〔佐久間会長〕

いつもお願いしております、根木委員いかがでしょうか。

〔根木委員〕

佐久間会長のサポートをさせていただき、皆様のご意見をいっぱい引き出せるように全力で頑張っていきます。ご承認お願いいたします。

〔佐久間会長〕

では皆様よろしいでしょうか。よろしくをお願いいたします。

それでは議事の進行に移りたいと思いますが、まず議事に先立ちまして、本会議事録書面委員を決めさせていただきたいと思います。僭越ながら、福西委員、松下委員よろしく願いいたします。

先ほども冒頭で申し上げましたように、本日の審議会におきましては、まさに変則的で、なかなか意見を申し上げ辛い面もあるかと思いますがどうぞご遠慮なくご意見、ご提言をいただき、活発な審議をお願いいたします。

それではお手元に配布してあります議事1「スポーツ推進計画の進捗状況」から順番に事務局より説明していただきたいと思います。

〔木村スポーツ振興課長〕

皆さんこんにちは。奈良県スポーツ振興課の木村です。よろしくお願いいたします。座って説明させていただきます。

お手持ちの配布資料、資料4「令和2年度奈良県スポーツ推進計画の進捗状況」についてご覧いただきたいと思います。奈良県スポーツ推進計画は平成25年に10年間の計画として策定しまして、中間年に見直しを行いました。令和4年まで現計画としております。佐久間会長の挨拶にもありましたように、基本理念を「生き活きと安心して健やかに暮らせる健康長寿の奈良県」、そして基本目標を「だれもが、いつでも、どこでもスポーツに親しめる環境づくり」としまして、スポーツ推進に取り組んでおります。計画に対しましての現在の状況でございますが、資料の1ページに基本目標を実現するための参考指標など記載しております。1日30分以上の運動・スポーツを週2日以上実施している人の割合が令和4年度に50%になる目標にしておりましたが、令和元年度調査ですでに男女とも50%を越えました。一方で右側の表の上段に記載のように、1年間にスポーツをしない人の割合が直近3年間、ほぼ横ばいで30%以下という目標達成に向けてさらなる取組の工夫が必要と感じております。2ページから4ページにかけては、これまでの県の取組や目標達成状況を記載しております。各ページ右側の目標指標と達成状況の表をご覧いただきたいと思います。3ページの上の表の4つ目ですけれども、全国大会1位の奈良県選手の人数、団体や、その下の表の1つ目、橿原公苑年間利用者数のように既に目標値を上回っているものもあれば、戻

っていただきまして 2 ページの上の表の 2 つ目、法人格を有する、総合型地域スポーツクラブの割合や、3 ページの上の表の 1 つ目、スポーツ指導者数など、現時点では目標達成には厳しいという項目もございます。5 ページから 10 ページにかけては具体的な事業内容等を記載しております。今年度は新型コロナウイルスの影響で多くのイベントが中止となりました。この件につきましては、後ほどご説明させていただきます。

このように県としましては様々な取組を行っておりますが、1 ページの上段真ん中の表の「運動習慣に関する年代別」を見ますと男女ともにビジネスパーソン、子育て世代である 20 から 30 代の年齢層が低い数値となっております、この世代にどう運動習慣をつけていくかというのが課題だと考えて思います。

その対策としまして、これまで県の橿原公苑陸上競技場を週 3 回夜間無料開放にして自由に走っていただけるようなナイトランの開催や、奈良マラソンなど、幅広い年代が参加出来るような県の取組で一定定着しているものだと思います。そういう面につきましては多くの参加者はいるんですけども、今後さらに子育てや仕事で忙しい世代、参加出来ない方にどのように働きかけていけばいいかということにご意見をいただきたいと思っております。

続きまして資料 5 を御覧いただきたいと思っております。

新型コロナウイルス感染症禍でのスポーツの取組についてでございますが、今年度は①記載のとおり、コロナの影響によりまして、少年少女野球教室やサイクルスポーツイベント、奈良マラソン、市町村対抗子ども駅伝などが中止となりました。その一方で、②に記載のように健康の為、少しでも体を動かしていただこうと、総合型地域スポーツクラブが開催するレクリエーションの費用に対する補助を行ったところ、23 市町村 31 のクラブで 51 件もの新たな取組をしていただきました。また、サイクリングにおけます運動機会を推奨しようということと合わせまして奈良の魅力を発信したいということで、サイクリングコースの動画を作成配信したところ YouTube 視聴回数、現時点で 3200 回という実績となっております。さらには、③に記載のように自宅で簡単にできる体操を SNS を通じて紹介したり、④記載のとおり中止となった奈良マラソンの代替イベントを開催するなど工夫をこらしながらコロナ禍での健康維持あるいは、運動スポーツ習慣継続のために事業を実施してまいりました。

この奈良マラソン代替イベントにつきましては、毎年奈良マラソンに御協力いただいております、マラソンランナー、有森裕子さんが日経電子版グッデイの取材に、「コロナ禍において安心安全を第一に走る楽しみを重きに置いた企画であって、本来の奈良マラソンの楽しさを凝縮した大会であったと、また参加した皆さんが気持ちよく走っていた姿が印象的でとてもよい大会であった」とお答え頂いております。本当にありがたいと感じましたし、工夫して開催して良かったと思っております。

今後も、新型コロナウイルス感染症の状況を十分に踏まえまして適切な対応をとりながらスポーツイベントの開催にむけて何が出来るのか知恵を絞ることが必要となっております。そういう意味では、コロナ禍でのスポーツ振興施策やコロナ終息後のスポーツ習慣や環

境への対応についてもご意見をいただきたいと思っております。

次に資料 6 を御覧いただきたいと思えます。

東京オリンピック・パラリンピック等に関する取組についてございますが、コロナの影響で、東京オリンピック・パラリンピックの開催に懐疑的な意見もございますが、現時点では開催するという方針であるため、県といたしましては、開催に向けた準備、あるいは機運醸成に努めております。

左側表上段の、東京 2020 オリンピック聖火を活用した地方創生事業ですけれども、冒頭、部長からの挨拶にありましたように、5 日間 7 箇所ギリシャから日本に運び込まれました聖火と、聖火リレーに使用しますトーチの展示を行ったところ、5 日間で 4500 人余りの方々が会場に足を運んで頂きました。本物の聖火やトーチを見る機会というのがめったにないということもあって、関心を持っていただいたのではないかなと思っております。この時に、本来であれば、柔道の野村忠宏さん、レスリングの吉田沙保里さん、バドミントンの高橋礼華さん、金メダリスト 3 名によりますトークショーも予定しておりましたが、こちらはやむなく中止とさせていただきます。

中段の東京 2020 オリンピック聖火リレーですけれども、奈良県では 4 月 11 日と 12 日の 2 日間、記載の市町村で開催します。総勢約 200 名のランナーが走る予定でこれにつきましては、実施に向けて着々と準備を進めております。下段の東京 2020 パラリンピック聖火リレーフェスティバルのほうは、県内で聖火の火起こしします採火式と、起こした火を開催している東京へ届けるための出立式を記載の日程・会場で開催する予定です。

右側の表上段の、東京 2020 オリンピック・パラリンピックのキャンプ地招致・ホストタウン交流につきましては、青色で記載の 4 か国のキャンプの受入は既に決定しておりました。ただ、東京オリンピック・パラリンピックが 1 年延期したことに伴いまして、改めて各国と再度調整をおこなっております。加えまして、黄色で記載の 2 カ国につきましては、キャンプ地招致に向けて、現在、調整を進めております。

最後、右側表下段の、ワールドマスターズゲームズ 2021 関西につきましては、オリンピック・パラリンピック同様、コロナの影響で 1 年延期となりました。奈良県では綱引き競技を葛城市で、カヌースプリント競技を吉野町で開催する予定です。

オリンピック・パラリンピック、あるいは、ワールドマスターズゲームズといった国際大会を、またスポーツを通じた国際交流の促進、インバウンド等による地域の活性化にどうつなげていくかについても、あわせてご意見をいただければと思えます。

資料 4～6 についての説明は以上となります。ここまでについてご意見頂ければと思えます。

また、資料 7 につきましては、後ほど説明させていただきます。よろしく願いいたします。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。今の資料 4～6 まで、スポーツ推進計画の進捗状況、コロナ禍でのスポーツの取組、東京オリンピック・パラリンピックにかかわる本県の取組について、説明して頂きましたけども、これまでの点で、全体通じてでもよいですから、何か、分からなかったとかご質問がありましたらお願いしたいと思います。その後で、資料毎にご意見いただきたく思います。

まず全体的な質問と言いますか、感想を含めて何かございましたらよろしく願いいたします。はい、福西委員。

〔福西委員〕

よろしく願いいたします。

1 点だけ、資料 1 の 1 ページに数字が、50%とか 30%とかあると思うのですが、基本的には、どれくらいの方の人数のデータ、ざくっとでいいのですが。100 とか 1000 とか。その程度でしょうか。

〔佐久間会長〕

実人数ですか。

〔福西委員〕

そうです。データの人数。パーセントがどれくらいの人数でしょうか。

〔棕本スポーツ振興課課長補佐〕

例えば、なら健康長寿基礎調査の方は、毎年、県民の皆様に抽出でアンケートを依頼しておりまして、母数としては、有効回答数がだいたい 6000 前後というかたちでいただいている分についての 50%の割合となっております。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

オンサイトだけでなく、WEB で参加なさっている委員の方々何か、全体的な面での、これまで約 8 年間の成果もふまえてですけれども、ご感想的なものございましたら、お願いいたします。はい、蝶間林委員。

〔蝶間林委員〕

令和 2 年度のスポーツ推進計画の進捗状況の 2 ページで、左側の 2 番目、ライフスタイルに応じたスポーツの推進ということで、ビジネスパーソンのスポーツの推進というのがあるんですけども、その前のページでもすごくこの辺の年代のスポーツの取組が弱いみた

いなんですけど、何かもう少し具体的なこういうのをやった方がいいんじゃないかとか、会社の中でも昼休みには、ちょっとこうした、例えばふくらはぎの運動をすとか、そういったものをやると意外とコロナに負けない下半身ができるんじゃないかと思ったんですけど、この辺はいかがな推進方法でしょうか。

〔佐久間会長〕

はい、ありがとうございます。

それでは、事務局の方よろしく申し上げます。

〔木村スポーツ振興課長〕

ご質問ありがとうございます。

この表にございますように、まず、ビジネスパーソンが運動習慣、いわゆる率が低いのが年代となっております。アンケートなんかでも、やはり仕事が忙しいからなかなか運動する時間が取れないといった結果が出ております。簡単なところでいいますと、例えばですが、ちょっとした買い物に行くのにも、自転車で行くんじゃなくて歩くとかですね、通勤をちょっと徒歩通勤に変える、あるいは、もっと簡単に言えば歩くために例えばスニーカー通勤をすとか、そういう小さなことからでもやっていけばいいのではないかなと考えております。

〔佐久間会長〕

よろしいでしょうか。他に委員の方々、何かご意見はありませんか。

〔松下委員〕

松下でございます。

スポーツの取組を評価と振興というふうに分けて考えましても、それぞれの項目で非常にレベルが上がってきているというふうに感じています。特に評価という意味においてはですね、一番びっくりしたのは高校駅伝の奈良県男子がめざましい活躍をして、必然的につい奈良県のチームを見てしまうんですけども、素晴らしい成績をあげられたというようなところ。それから、ラグビーの天理大学しかりですね、非常に競技によってはめざましい結果が出てきているものというふう理解しています。また振興においてもですね、それぞれの目標のパートのところでは目標値を達成し始めているというところは力強いお話だなというふう理解しています。引き続き、劣っているところを強化して、更なる改善というものを図っていければなというふう考えております。以上です。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。ただいまの松下委員の感想等を含めまして、今後その面ですね、

また、継続して振興を図っていく必要性を感じ取れますけれども。他に感想でも結構です。
はい、田中委員。

〔田中委員〕

運動習慣のパーセンテージ、飛躍的に増えていますよね。素晴らしいことだと思うんですけど、先ほど、ご質問があったので、母数は分かったんですけど、どれぐらいの運動習慣があるっていうふうに答えた方をカウントしているのかっていうことと、平成 27 年から急激に増えていますよね。だから、そこで何か具体的に取組をされたのかなと思ひまして。最初の資料、平成 27 年から急に増えているんですよ。だから、その取組自体がどういう取組をされたかっていうことと、要はカウントする目標が決まれば、それに合わせて、20 代 30 代の人、例えば通勤時なら通勤で歩くということなんですけど、そういうことをカウントできるのであれば、そういうことを推進していくということで、働く世代の方々の運動習慣がデータ上としてあがる。その辺を教えていただければと思います。

〔木村スポーツ振興課長〕

ありがとうございます。

これが 1 日 30 分以上の運動を週 2 日以上実施している人の割合ということで、数字は示させていただきますいております。

〔田中委員〕

30 分歩いて通勤でもオッケーなのですね。分かりました。

〔木村スポーツ振興課長〕

平成 27 年度から、数字がおっしゃられるとおりの右肩上がりになっております。このスポーツ推進計画にありますように、いかにビジネスパーソンあるいは子育て世代に運動していただくかということで、先ほど私の説明の中で申しましたように、地道なところではあるんですけども、樫原公苑陸上競技場を夜間無料開放して、少しでも運動してもらおうとか、あるいは、県で持っている公園なんかでもですね、子どもと一緒に保護者付き添いとか、保護者の方も一緒に来てちょっと簡単な運動でも出来るような、そういう環境がある程度、整ってきているのではないかと考えております。

〔田中委員〕

30 分通勤で歩くのもカウントできるのであれば、例えば「1 駅歩こうキャンペーン」とか、樫原神宮で降りて、歩いてる方がおられるので、県でそういう目標を達成出来るようなキャンペーンを行ったら働く世代に運動習慣をつけることが出来るんじゃないかなと思います。

〔木村スポーツ振興課長〕

ありがとうございました、参考にさせていただきます。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。根木委員お願いします。

〔根木副会長〕

今は質問と提案みたいなものでもいいですか。

今の中で色々話したいことがあるんですけど、最初の部分でいくと、ほんとにみんなですぽーつする実施率が上がっているのは素晴らしいことなんですけれども、まだどういう形で上がっているか見えにくいので、掘り下げて分かるところは言っていたらなというのと、実際こういうことをやっていったらなというのを話させていただきます。

奈良は誰もがスポーツを親しむということと、「だれも」という言葉を入れて貰えるような前の会議でもさせていただいた記憶があります。何が言いたいかという、「たれも」という言葉の中には、小さな子どもさんからお年寄り、障害者、みんながいるので、やはり分けて考えるというよりは、本当にスポーツする人というのは色んな人たちがいるっていう考え方がベースでないと駄目なので、そういうことをまずは前置きとして言わせていただきます。

でも、実際子どもたちでどれぐらい上がっているかとか、高齢者でどれぐらい運動しているかとかが全体を底上げしていくためには必要であると思います。そこでいくと、この中であえて障害者の人たちが、奈良県の中でスポーツをされている人たちがどれぐらい増えているかというのが見にくかった。例えば、そこだけではないけども、僕は、車椅子に乗るようになったのが高3で、スポーツは20歳から始めているんですけども、田原本の心身障害者福祉センターというところでスポーツさせていただいて、当時としては最先端で宿泊施設があるとか、プールがあるとか、ものすごいものがあつたんです。実は当時としては凄かったですけども、最近行ってないんですけども、エレベーターが無かったりだとか、駅から凄く遠かったりだとか、到底、障害者の人たちが気軽に行けるような状況ではない。それ以外でも奈良には、プールが新しいのが出来たりだとか、凄いものがたくさんあるんですけども、実際、障害者の方々がスポーツをする実施率みたいなものが、どれぐらい上がっているのかがもし分かっていたら、実際この場でアピールしていただけたら。実はそんなに上がっていないのであれば、そこも入れていかないと駄目なのかなと思いました。

それと、本当にスポーツの参加の仕方というものの自体を、新しいスタイルでオンラインとか使って取り組んでいる方、この中にもたくさんいらっしゃると思いますが、そういうのもこれから大至急考えてやっていくことが必要だし、実際そうすることによってスポーツの仕方、参加の仕方というのが概念までが変わっていくようなものになってきているので、そこは議論していけたらいいのかなと思いました。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

最初の障害者スポーツ、いろいろな障害の種類があると思うんですけど、一括して全部、障害者として分析するのは甘いという捉え方でよろしいでしょうか。例えば障害者といっても心身等、いろいろあると思うんですけども。

〔根木委員〕

そうですね、障害者の人たちのスポーツ実施率・参加率というものが具体的にデータが取れていて、上がっているというものがあるなら、是非とも言っていただけたら凄くグッドニュースなので、良いのかなと。でも、それは取れてませんが全然良いと思うんですけども。それが何処で見えますとか、この指標の部分の30分以上というところの母数をどこで取っているかとか、障害者も含んでいるのが分かる範囲でお願いします。

〔木村スポーツ振興課長〕

運動習慣の割合の中に、障害者も含まれております。

どういう取組がということで、やはり何を実施していますかという項目については、やはりウォーキングでありますとか、ジョギングといった項目、いわゆる大きな施設が必要でなくて、一人で手軽に、そんなにお金をかけずに出来るという簡単なものがされているのかなと。いわゆる競技スポーツというよりは、普段、体を動かすというような運動習慣というのが伸びている原因かと思っています。

ご質問にありました障害者の方ですけども、1ページ目の右の下の表ですね、障害者スポーツ大会における参加者数ということで、毎年数字はとっております。ここには、どういう障害をお持ちか、障害別については出てはございませんが、県内で開催しております障害者のスポーツ大会を毎年参加人数を集計しておりますが、徐々にではありますが、右肩上がりとなってきております。昨年度は、コロナの関係で参加者数が減ったりというようなことがありました。県内の障害者の大会というのは年何回かございます。また、障害者の方のスポーツ教室というのも地元の方でやっていただいたりしておりますので、そういったところに参加を呼びかけていくしかないのかなと思っています。今現在分かる範囲では以上です。

〔根木委員〕

ありがとうございます。

スポーツ大会の参加者数が上がっているということで、凄く良いことですよね。下がっていたらどうしようかということですが、上がっているということであれば何故上がっているかということも聞けたりとか、具体的にどんな競技で上がっているとかあったら、障害者の人たちのスポーツも、例えばみなさんもご存じのボッチャという競技、みなさん知って

いますよね。これは学校中でやっていて、障害関係あるなしに色んなところでやって、支援学校とか一般学校のクラスの人たちもこぞってみんなやっています。これは絶対実施率上がっているはずなんです。障害者の人たちの中で。

今奈良県で障害者スポーツとか検索してみても、どこで何が出来るかとか全然あがってこないです。元々が少ないのか、実はやっているけど、発信力が弱いのかっていうところも、今の時代だから本当に今はスマホ見たりすることで、スマホでスポーツが出来る時代なので、そこは出来たらなと思います。

それで具体的に言うと、拠点である福祉センターさんと話させていただきましたが、僕らの時代はネット等が無かったので、逆にここありますよと積極的に大和高田市の方たちやスポーツの先輩たちが情報をもらって、盛んにスポーツをされていたんですけども、どういった教室をやっているかとかがスマホ見て出てこないというのは、今はもったいないなと思います。やっていないなら仕方ないですが、色んなことをやっているのを知っていますので、そこはもったいなことをしていると思うので、大至急力を入れてやるべきで、実施率上がるのかなと思いました。

〔木村スポーツ振興課長〕

ありがとうございました。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

最初の方に根木委員からのお話にもありましたけど、障害者スポーツの現状についての、もう少し分析的な捉え方が必要じゃないかということなんですけど、特に施設面も含めましてバリアフリーの問題、こういったことも含めて引き続き検討していかなければならない問題だと思っております。

他に委員の方ございませんでしょうか。今全体的にと申し上げたんですが、1番目の議事のところの推進計画進捗状況に集中しておりますけども。山口委員お願いします。

〔山口委員〕

運動習慣者の割合について、1つ質問したいと思います。

平成27年から右肩上がりで50%達成したということは、これは素晴らしいことではないかと思います。奈良県というと、私のイメージでは南北が非常に長いというイメージがあります。このデータですけど、例えば都市部と農山村部ではかなり、スポーツ環境や生活環境が違うと思いますが、そういう人口規模等に分けてデータを取られているのか。その点について、お尋ねしたいです。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

〔木村スポーツ振興課長〕

現在のところ、そこまでの細かい分析はございません。

また、今後のアンケートの取り方、参考にさせていただきたいと思います。

〔山口委員〕

都市部に住んでる人と農山村部における環境は異なり、実際の政策や施策も違ってくると思います。調査データのサンプルを都市部と農山村部に分類し、クロス集計したらすぐ分かります。その分析結果に基づいて具体的な政策・施策を議論することが1つのポイントかと思います。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。では、今後の課題として事務局にお願いしたいと思います。他にご意見ないでしょうか。

〔並河委員〕

天理市の並河です。

冒頭の部長のご発言始めですね、天理大学ラグビー部のみなさんの優勝のことなどもご紹介いただきまして、ありがとうございます。また天高のみなさんが選抜出場というのもあるんですけども、この天大のラグビー部については夏にクラスターが発生して、その際には、今でこそ優勝おめでとうという感じですけども、非常に大きな逆風もございました。そんな中、地域全体として応援する形になったのは、やはりラグビー部のみなさんが地元への感謝ということをもものすごく大事にさせていただいて、社会貢献などを積極的にされている姿を、市民も見ているという部分があってこそだと思っております。ですので、地域の本当にスポーツで活躍されている方と、一般の市民の皆さんをしっかりと私たち行政も橋渡しをしていくのが非常に大事だと思っています。コロナの中で子どもたちが臨時休業していた際に、ラグビー部のみなさんも含めてですが、他に柔道であったりとか、トップリーグで活躍されてる皆さんが身体の動かし方の動画講座をやっていただいたということもありました。

またそれ以前にも、意外に近くにあっても行った機会が無いところというものは多いものです。大野将平さん、リオの金メダリストですけども、彼とラグビーの元日本代表の立川理道選手に本市のスポーツ政策特別顧問になっていただいて、その2人が声がけをして、呼びかけて、柔道場、ラグビー場、ホッケー場、野球場色んなところで、公開練習を地元の皆さんを招いて触れ合うというような機会もコロナ以前にはやっていたところがあります。

そんなことを積極的に進めていく中で、関心がある人だけが応援しているというよりも、

その裾野を広めていくような取組を是非、今後も県と連携をしながら、やっていけたらありがたいと存じます。

また、障害者スポーツの点なんですけれども、奈良クラブに障害者サッカーのバモスというチームがございまして、本市在住のチームに所属している人が、数年前にワールドカップの選手で選ばれるということがございました。私もそれまで全然知らなかったんですけれども、資金的に結構遠征費用も大変だということで、みんなでTシャツを買うと応援するというような当時キャンペーンがあったので、市役所のみならず多くの市民の方にも呼びかけて、彼の遠征を応援しようというような取組をやったんですが、何かしらやはりそういうきっかけを作っていくことで、障害者の方のみならず、一般市民の皆さんにも障害者スポーツについて知っていただく機会が本当に大事なというふうに思っております。

最後に農村部についてですが、個人的なことで恐縮ながら、2年前に大和高原の古民家に引っ越しまして、それまで農村部で暮らしたことが全く無かったんですけれども、草刈りをやったり、薪割りをやったり、周りの高齢者を見ていたら、農作業で私よりはるかに身体を動かしてらっしゃる方が多くて。今コロナで地方に非常に目を向けていただいている方が増えております。そういった山村で暮らすこと自体が、本当に今までの競技スポーツとかで動かしたことがないような筋肉もいっぱい使っていて、スポーツというか運動習慣という点からも非常にメリットがあるんだということを実感しております。是非、移住・定住促進と掛け合わせまして、県とも一緒にそんなメリットも周知を出来たらと思います。以上3点です。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

天理市の市民や、大学を巻き込んだ取組は非常に参考になります。最後の移住した結果、山村での運動ですが、そうした事例を含めて、示唆に富むご意見でした。これは、1ページ目の上段の資料と関係するのですが、運動の捉え方ですが、服装も場所も、そういったこだわりで、運動とスポーツの捉え方の意識の違いがあるのかなと思います。まさに草刈りとか日常生活も運動であるはずなのですが、アンケートなどとの捉え方の違いがあるのかなと。特に20才代から40才代の運動の実施率は下がっていますが、実は、日常生活では、一番体を動かす年代ではないのかなと思います。そういうことも含めまして今後色々と検討して行きたいと思います。

先程から地域の問題も出ていますが、伊藤委員にお伺いしたいのですが、村でこういった特徴あるのか、教えていただければと思います。

〔伊藤委員〕

御杖村の伊藤です。奈良県の地理的なことから言いますと南北と人口格差があると思っています。私の方の村、奈良県の東部にある。南部東部という吉野地方と宇陀地方という

ことで、中山間というものの過疎地域です。人口でいうと1500を切ります。それから高齢者人口、65才以上が、60%になろうとしている。そうしたなかでスポーツとなりますと、日常の生活は別にして、一番はゲートボール、グランドゴルフ。こういうのを熱心にやってくれています。他のスポーツとなるとなかなか目につかないところがある。そうしたなかで運動習慣の割合の高いなかにゲートボールもおそらく入っていると思いますが、高齢の方は動いてくれているのではないかと思います。

若い人たちがどのような形でスポーツに取り組んでいるかとなりますと、ちょっとやはり、最近、あまり見られる機会がないのかなと思います。昔は、例えばソフトボール、野球などを若い人たちがやっていたんですが、今はできていないところです。

あと考えられるのは、村独自でというのは難しんですが、隣の村とか、桜井宇陀広域的な連合の中で、例えば、隣村とは郡民マラソンという形で年1回やっています。村も「やまと姫マラソン」ということで、地元の人はもちろんですが、村外の人も来ていただいてやっております。

特に思いますのは、指導者がなかなか過疎地域にはおられない中でどのように確保していくのか、課題ではないかなと思います。例えば、中学校の場合でしたら、先生になるんですが、大切ではないか、力量や熱意も必要ではないかなと思います。あまり近畿大会、全国大会に生徒が出場するという機会はなかったのですが、去年、陸上のジャベリックスローで、近畿大会、全国大会に生徒が出場してくれました。指導者の熱意とか教え方によれば、子どもたちが伸びるのではないかなと思います。どちらかという子どもたちの人数も少ないですので、団体競技的なものはできないのですが、陸上なり、個人競技などでは伸びていく可能性があるのではないかと感じています。子どもたちに興味をもたしていただける指導者が必要ではないかと感じています。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。先程の並河委員、只今の伊藤委員からのご発言に共通するものとしては、行政としてはどのように巻き込んでいくか、そしてそこに様々なニーズをどのように組み込んでいったらいいのか。年齢層の問題、指導者の問題。以前の定例会でも申し上げましたが、色々なコミュニティーの中心になるのは学校であろう。学校の場所を提供してもらってそこで展開する工夫というものが必要ではないかなと思います。そういった問題を含めまして松永委員のお考えをお願いしたいと思います。

〔松永委員〕

松永です。よろしく願います。

今のお話でいくと、スポーツ庁では、学校体育施設の有効活用推進事業を展開し、中学校を拠点にした地域スポーツクラブとの連携のモデル事業なども紹介されている。私も、長野県の過疎の地域で長年にわたりアドバイザーとして活動しています。詳細は、スポーツ庁の

ホームページ等で紹介されると思うのですが、部活動後の中学校と地域のクラブの関係及び、しくみづくりや外部指導者の話、さらに地域の見守り等を含めた学童的な発想のしくみや、中学校の先生方の働き方改革を含めた部活動改革など、色々な取組がなされているところですので、奈良県さんでもそうした情報を収集されるのが良いかなと思ってお話を聞いておりました。

また、地域特性のところでは外部指導者、指導の先生方などの指導全体を含めてのことなのですが、コロナの影響にはプラス面もありまして、デジタル化、Wi-Fi 環境の整備がかなり進みました。しかし、まだまだ一部の過疎地域、特に山間部では Wi-Fi 環境の整備が遅れており、すべての環境改善はまだまだ難しいということもこの 1 年余りの中で経験してきている。私も地域特性に応じた分析と対応は、今後も重要なキーワードになってくると思います。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。まとめた形でもご意見いただいたわけですが、本来すべての資料 6 までのところと申し上げたんですが、資料 4 にご意見が集中しました。

貴重なご意見をいただいたわけですが、時間の関係で、資料 5 の「新型コロナウイルス感染症禍でのスポーツの取組」についてご意見等いただきたいと思います。中止した県のスポーツイベントがごさいますけれども、先程、松永委員のお話にもありましたように、また新たな形での展開がなされています。例えば、資料 5 の③のような展開とか、あるいは、④のようなスポーツイベントの展開など非接触型、そしてあまり密にならない、そういったかたちならば、かなりいろんなやり方で展開ができるのかなと思っています。資料 5 のところの取組などについて、コロナ中、ウィズコロナだけでなく、ポストコロナを含めましてご意見を頂戴したいと思います。はい、朝原委員。

〔朝原委員〕

資料 5 のスポーツイベント開催の 11 月 21 日「陸上トップアスリートによる陸上クリニック」をさせていただきました。これは私と同じ大阪ガスのオリンピックである江里口君と一緒に中高生の奈良のトップの選手たちを集めた陸上クリニックをやらせていただきました。これは本当にコロナ禍の指導、リアル指導ということで、人数もこれくらいが限界ではないかということで、間を空けながらということをやっていました。ただ、外でやっていますし、種目がら接触をするということはありませんので、陸上に関していうと、こんな風に外でするイベントはどんどんやりたいなと思います。

それに関連しまして、自宅で出来る簡単な体操とか、今は世の中に溢れている。YouTube 見ればいくらでも出てくるのですが、僕もトラッククラブやっていて、YouTube 立ち上げて、それを皆に見てもらおうとすると、それなりに策をとって、お金をかけて宣伝してやっていると、なかなか浸透しない。見てもらったとして、どんな風に見てもらって、どんな効

果があるのか、オンラインでは一方通行なので難しい。資料4の一番はじめにあった運動習慣の割合がずっと伸びてきていて、私は、コロナになってさらに伸びるんじゃないかなと思っています。なぜかという、皆さんオンライン等々で通勤時間が減ってきて、健康志向に重きをおいて1日30分くらいの運動なら進んでやる人がでてくるんじゃないかなと思います。そういう人たちに、1人で散歩などやっているのはいいのですが、オンラインでも繋がり合いながらみんなのできるスポーツができないかなと日頃考えているのですが、やはりすごく難しく、この辺を皆さんのご意見いただきたい。奈良県さんがこういうオンラインで面白いことをしてくれたりいいという希望とかありましたら参考にさせていただきたいなと思います。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。県の方にお尋ねする前に並河委員のご意見をお聞かせいただきたいと思います。

〔並河委員〕

私も奈良マラソン実行委員会の副会長を仰せつかっておりまして、今年はオンラインで開催という形だったのですけれど、関係者の皆様、ありがとうございました。それに先だって11月に奈良マラソンの枠組みでロゲイニングというチェックポイントを時間内に回って行く、観光とスポーツを組み合わせたようなことをやったんですが、バーチャルとリアルと組み合わせる幅を広げていくという取組は、コロナ後も逆行することはないと思っています。そしてバーチャルを組み合わせることによって現地に来なかつ方にも訴求できるし、他の要素との組み合わせということも沢山でてくるので、今のうちにどういう形で付加価値を高めていくかというのを考えていくのが非常に大事ではないかと思っています。

先般、スポーツとは異なるんですが、映画と教育を組み合わせた取組というのを、東京の映画祭と本市の山間の学校と一緒にやりました。先程、御杖村長のお話にもありましたが、なかなか基礎自治体レベルでは、地元の方以外に指導者だったりとか、著名人と地元の方をつなぎ合わせるのは難しいですけれども、県とご一緒にオンラインを駆使しながらといことであれば、幅も非常に広がってまいりますので、また新しい県市の連携として、バーチャルとリアルの組み合わせをよろしくお願いします。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

〔根木委員〕

朝原さんがおっしゃっていたイベント、オンライン、ハイブリッドの形とですが、今、東京でオリンピック、パラリンピックの活動をしていて、ほぼ東京にいるのですが、オリパラ

に向けて元々スポーツイベントだらけの予定だったのが、ことごとく出来なくなった。もう次のステージにいて、オンラインでします。来週、チャレスポ東京といって、東京都で障害者とスポーツの一番の肝いりのものに出るのですが、会場で一般参加も来られなくなったので、各ブースには、競技団体の人達がデモをそこで見せてオンラインで配信する。ゲストとして僕とかパラリピアンであったり、本田望結さんやお笑い芸人が来ていただく。そうすることによって、会場に来てもらえる人ってある程度限られているし、そもそもスポーツ好きでやりたいという人の他に動機付けになっているのが、芸人さんのファンとか、運動するまではないが、気になっているという人が、ネットで見に来るといのはすごく多いと思います。

そんなことも考えると、ネットを見ながらその場でスポーツする、朝原さんが走り方の教室をするのもひとつなのですが、運動はしたくないけど何かスポーツの事は気になっているというトークセッションなどがあると皆さんが入ってくる動機づけという意味でもスポーツの魅力を伝えるという意味でも、することは全てにかかってくる。活用はいっぱいあるんじゃないのかな。例えば、千葉さんと朝原さんが語るスポーツトークなどすれば、興味がある人も来られる。そこに実際プログラムがあれば、今から10分間こうしましょうねという話になる。今までなかったことだが、意見を出せばいくらでも出てくる。僕も今月あと2回オンラインのイベントをやりますが、まだ内容が決めっていないがやりますというところ。これくらいの勢いで進んでいる。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

今のお話しの中で、千葉委員のお名前も出てきましたので。オンラインを活用してのお話しについて何かご意見をお願いします。

〔千葉委員〕

私は、スポーツをしてない人の目線で考えた時に、スポーツをする人はめっちゃするんですよ。しない人とする人の差が激しくて、コロナになってもみんなヨガやなんやする人、鍛える人もいれば、まったくして、ストレスたまって鬱になる人との温度差が激しい。したい人は、情報を何でも手に入れる。YouTubeでもインスタでも何でも。ただ、しない人は全く何もしない。情報がない。調べればあるが、調べるまでのテンションもあがらない。趣味が分からない。興味がわからない。何かしたいけど、何からしたいのかわからないと悩んでいると思う。

お年寄りや障害者に関していうと、ピラティスって、細くてタンクトップ着たインストラクターがやっているスポーツではなくて、ドイツ発祥で、リハビリがもととなって出てきたスポーツ。体幹を鍛えて、足が使えなくても、動かなくてもできるスポーツ。筋違いで日本では細いきれいな人がやるイメージをもっている。本来は違う。体が動かなくても、お年寄

りとかでも出来るスポーツであることを逆に提案してあげないと。情報を発信してあげないと。高齢の人が自らそのようなスポーツがあることは知らない。提案してあげる情報が必要なのではないかと思う。

子どもについては、ゲームがすごいので、その世代にスポーツしなさいよというのは難しいのかなと。ゲームをとりあげるしかない。

外は接触しないから使えるけど、施設はこれしたらいけないとか決まり事が多い。お金もかかるし、ジムも高い。コロナでお金に困っている人もいるので、安くして貰わないと行けない。もっとお手軽に、もうちょっと敷居を低くして、ふらっと体を動かしたいなど、スポーツをしていない人たちが興味もって行動に移そうかなと思える何か環境がないと思う。具体的にどうしていいかわからないけど。

我が子の場合は、外で遊んでおいで、野球しておいでと言えば行ってくるが、他の子どもは全く来ていない。コロナになれば、余計、YouTube やゲームやら子どもは逆にスポーツしない。運動すらしていない。そこを大人も含めて、どうしたらいいのかな。分かれば苦勞しないが、そこはすごい問題だと思う。ずーっと画面ばかり見ているのは良い人間にならないと思うから、そこを阻止して、不健康な人たちをこの機会に健康にさせたいと思うけどどうしたらいいのか。

こういうのがあから、こうしてみればとか、とりあえず何か情報にあたるように。蜘蛛の巣があって、何かに自分が引っかかるようなことが欲しい。知らない人に知らせる情報がほしい。ネットではなくて、耳に入るように、調べる手前の段階で。

〔佐久間会長〕

非常に、ある意味では、運動・スポーツあるいは健康方面の問題に触れるような大きなテーマであると思う。運動・スポーツの重要性はわかっているけど、出来ない人はどうすればよいかといった非常に大きな問題について、蝶間林委員いかがでしょうか。

〔蝶間林委員〕

先ほどの千葉委員の話に繋がるが、先日、大学の教員の後輩と話をしていた際に、今の若い大学生は汗をかくのが好きじゃない人が多いそうです。これは非常に大きな問題です。コロナの状況になって、YouTube は見るが、自分の身体は動かさない人が多い。これを防ぐには、2 ページ目にある幼児向け運動プログラムの普及はとても大事だと思っています。

奈良県は、自然環境が都市部と違ってかなり広いと思うので、子ども達に出来るだけ四肢の協調というか、コーディネーショントレーニングを混ぜたような、自分の身体がどうなっていて、どう動かせば、どう身体の使い方ができるのかを中心とした、いわゆる神経系の改善内容をプログラムに取り込んでもらって、子ども達に是非やってもらおう。そうすれば中学・高校・大学になっても、身体を使う喜びや楽しさをうまく伝えられると思う。どうぞよろしく願いいたします。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

まさに運動の楽しさを、どこでどのように実感してもらえるのかといったところが問題だと思います。その点で増本委員はいかがでしょうか。実際に展開されていると思われるんですが、運動の重要性は分かっているけど、なかなか出来ない人になんとかして運動をしてもらいたい。どういった取組があるのかご提言をお願いしたい。

〔増本委員〕

我が社でいうと、オンライン体操教室をスタートしている。今は利用者が1万人で喜ばれているが、一番喜ばれるのは、一方的にオンラインでお手本の映像を見ながら運動するのではなく、自分が運動している姿をインストラクターに見てもらって双方向型のプログラムが一番評価が高い。ある程度の運動習慣があった方でも、家で一人で動画を見ながら運動するのは続かないのが実際のような。やはり、人との交流があったり、誰かに褒めてもらったり、アドバイスをもらえるという、感覚として人との接点がある形での、バーチャルでのスポーツ運動は非常に喜ばれるし広がりがあるのではないかと思います。

違う観点からとはなるが、コロナ禍でのということと、参考になればであるが、情報共有になってしまうのですが、今はコロナ禍での活動量が不足して、それによって健康上の障害をもたれる方、いわゆる、健康二次被害、が問題となっていて、スポーツ庁も啓発強化をしているところです。

実は昨年、筑波大学と我々カーブスの会員を対象に健康二次被害の共同調査をした。今月から来月に論文でしっかりした結果が出ると思うんですが、緊急事態宣言の昨年4月・5月の間に全国2000店舗休業したんですが、その期間それまで運動習慣のあった方が1~2ヶ月まるまる運動出来ない期間があった。運動が出来なかった期間と、そのあとの6月以降の運動を再開して戻ってからの、健康状態やメンタルの変化のデータを取りまして、筑波大学さんに解析頂いているが、非常に簡単に結果をお話ししますと、2ヶ月運動ができなくて、身体的にもいろいろな障害が出た方が多かった。特に高齢の方。それで、特にメンタル面も落ち込んで鬱になりかけた方、非常に高齢の方は、認知機能が低下しているんじゃないかということが示唆されるような結果が、2ヶ月間運動しなかったことによって出てきている。

ただ、運動再開すると、かなり回復をして、特にメンタル面での回復が著しいという結果が出ているそう。今のような時期にスポーツをしっかりしようとするのは、身体だけではなく、精神的な健康にも非常によいということが改めて結果として出ている。

さきほどの、働き盛りの男性とか子育て中の女性の運動参加率が低いのは全国的な傾向で、問題ではあると思いますが、精神的なストレス解消とかメンタルの健全化みたいなアプローチからのスポーツの推奨も意味があると感じている。

もう一つ、あまり良くない結果であるが、うちのフィットネスのお客さんですらフィットネスに戻って運動再開したが、日常の活動量が戻っていない方が3割ぐらいいらっしゃる。

週 2~3 回フィットネスにきて運動してもらっているが、日常的な外出の機会が減り、歩行量とかが落ちて、全体としては活動量が落ちている方が 3 割ぐらいおられる。

スポーツの機会をこのコロナ禍において、増やす様々な事業をしているのは、すごく奈良県さん素晴らしいと思うのだが、同時に日常のもっと身近な運動量をふやす啓発というのをしないと健康状態の維持が出来なくなっていると感じている。うちの中においては歩く量が減っている方が多いので、フィットネスに来るのにバスに乗ってくる方には、歩いて来て歩いて帰ってもらったりして強化している。参考になればと共有させていただきました。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

非常に活発なご意見としていただいています。時間が迫ってきましたので、次の資料の東京オリンピック・パラリンピックについて、特にレガシーの問題についてご意見をいただきたいと思います。

〔山口委員〕

健康上のコロナ禍について発言してよいでしょうか。

4 年ほど前に神戸商工会議所の中に「神戸スポーツ産業懇話会」という産学連携組織を作りました。3 年前から、市内の従業員 2000 人弱に対して、「スポーツ実施率に関する WEB 調査」を毎年実施しています。今年度は、令和 2 年 10~11 月から、コロナ禍における影響も調査しました。

コロナ禍の健康への影響をみますと、「体重が増えた」が 34%、「ストレスが増えた」が 32%、「健康意識が高くなった」が 20%ぐらいです。

コロナ禍にあって、色々なイベントやプログラムをやっています。去年は 2 つのことを実施しました。

一つは「企業交流運動会 in KOBE」。3 年前からやっています。今年は無理かと思っていたのですが、昨年 11 月にアシックスさんから提案があり、バーチャルで実施しました。14 社、160 人くらいが神戸だけではなく、大阪・東京から参加者がありました。1 チーム 10 名でポイント制を採用しました。30 分運動したら 5 点、1 時間以上すると 12 点、3 名以上で運動すると 2 点の加点を個人でもらえます。10 人のチームでチーム対抗戦を 4 週間実施しました。実際に競争意欲が高くなり、週 1 回以上の実施者は 98%以上となりました。コロナ禍でもモチベーションを高めれば、頑張れる。企業交流も可能であることが実証されました。

もう一点は、先ほど、天理市長さんも言われたように、リアルとバーチャルの融合がポイントです。ウィズコロナ時代においては、いろんなリアルとバーチャル・オンデマンドを組み合わせて、工夫していくことが大切になってくると思われま。

有馬温泉には e スポーツバーがあり、そこの青年部の老舗の旅館の若旦那さんがリーダーシップをとって、バーチャルの自転車レースを実施しました。本来は 5 キロのヒルクライ

ムをやる予定でしたが、コロナの影響で出来ません。そこで、ヨーロッパのソフトウェアの会社に有馬温泉のヒルクライムを動画で撮ってもらい、それを自転車にセットしました。登りになると自転車のペダルは重くなり、下りになるとスピードがあがります。実際のバーチャルレースで優勝したのはオンライン参加でした。

コロナ禍において、イベントやプログラムをコロナで中止するのは簡単ですが、柔らかない発想とアイデア、リアルとバーチャル、「安全・安心・楽しい」とかを皆で工夫してやるのが重要かと思います。

ひとつPRですが、2月20日に「ユーハイム・スポーツフォーラム2021」をオンラインで実施します。誰でも参加でき、日本サッカー協会の田嶋会長もきていただいております。

〔佐久間会長〕

バーチャルとリアルの融合の工夫について貴重なご意見をいただきました。

元に戻りますが、東京オリンピック・パラリンピックの取組について、松下委員お願いします。

〔松下委員〕

オリンピック・パラリンピック事前キャンプ事業自体は、非常に有意義だ考えております。ただし、現時点でIOC、IPC、ともに、チームに対してのレギュレーション、選手に対してのレギュレーションがまもなく発表されるか、内々で発表されるかまだ、掴んでおりませんが出るものだと思っています。国内に入りまして、非常に厳しいルールに守られてキャンプ地に行き、キャンプ地から選手村に入る、その選手と一般の方の接触は現地点で一切出来ないものだと考えられる。

その中で地元の皆さん、子ども達とどのように交流するのか。今言う、バーチャルテクノロジーを工夫してせっかく来ていただくというところで、その後のスポーツの振興になるメモリアルとなるような活動をすべきだと考えています。もちろん、この後、環境が変わり、最終的に通常開催が理想的ではあるけど、現時点でそのようなことではなくて、やはり出来る範囲のことをどのようにやるかをしっかりと見据えてやるべきだと思います。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

もうひとつご意見いきたいと思います。

〔根木委員〕

オリパラなので僕もその大会成功に向けて、東京にずっといます。ちなみに僕はパラリンピックの選手村の副村長させていただきます。

まず皆さんご存じだと思うのですが、パラリンピックのゴール・目指しているものはパラリンピックムーブメントを通じて、インクルーシブな社会創出です。いわば多様な社会というもの。オリンピックもそうですけれど。出ている選手達はいろいろな障害を持っていて、色々な国からいろんな文化、いろんなものの中で生きておられるといものがあります。それをスポーツを通じて皆で認めていこう、知的な社会をつくっていこうというものなんです。そもそもスポーツの価値ですよ。特にパラリンピックはそれを究極のゴールとしたいと目指しています。

オリンピック・パラリンピックのバリューは全部で7つあるのかな？とても素晴らしいもので改めて皆さん見直していただければいいかなと思うんですけども。その中で僕はいつも一番これいいなというものが、日本中なんですけども、共生社会ホストタウンに僕はいろんな所へ行かせて頂いていることが多い。その取組は、オンラインで会議をやっているのですが、僕も3日ぐらいでやったのかな、その3日間とも全部参加させていただいてんですけども、共生社会ホストタウンとはまさしくこの共生インルーシブな社会の創出ですよ。もちろん、いろんな国のキャンプ地を受け入れている。先ずはそこがもちろんきっかけであったりするのですが、国際交流であったり、例えば僕も学校で体験授業をやっているけれども、選手達がキャンプに来て実際に学校に行きスポーツをする。スポーツだけではなくて、その人達の国のことを知ったりするというものであったり。パラだったら障害について学ぶであったり。結果、そのまちづくりに関わってくる。まさしく所管しているところの奈良県文化・教育・くらし創造部ということの取組とドンピシャだと思うんです。

だからそういうことを究極のゴールとしてやっていることのなかでは、絶対これは大会が終わった後も続く話で、永遠に続く話なのでそれに向けて今できること、実際、川西町はオンラインでやっておられますよね。他市も大和郡山市もやっておられると思いますが、これをもっと広げて行ってくれればいいんじゃないかと思います。すごく僕はそれを期待しています。そこには僕も全力で動けたらなと思っています。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。それではもうひと方。

〔福西委員〕

地元でスポーツクラブをやっております福西です。

質問なのですが、有識者の方が沢山おられるので。オリパラの部分でレガシーという言葉が入っているのですが、例えばオリンピックの開会式をする。国立競技場ですよ、ととてつもない施設で何か残っていくというのは解らないことはないのですが、ホストタウンになっている例えば奈良市、郡山、天理、橿原など。日本でのオリンピックは2回目なので日本でのデータはないかも知れないけれども、海外でキャンプ地として誘致した地で、その後レガシーとして残っているものや、こういうものが地域として変わったよというものがあれ

ば教えていただきたい。

〔根木委員〕

地域というよりは今さっきお話しさせてもらったのですが、ロンドンの事例で行くと、パラリンピック開催後、直後はそうではないけれども、障害者の理解に繋がって行って特に教育の部分で今日本でもパラリンピック教育・オリパラ教育というものが出来てきているところだが、それは日本中で取り組んでいるもの。例えば奈良県の何処でどんな国がどんな競技をやられたことによって、その競技を通じて国のこと、障害のことを伝えていくというものになっている。

すでに日本中の学校でパラリンピック教育というものがきっかけになって、今、小学校で今年から指導要領の中に入ってきていたり、パラリンピック教育ってもう完全に日本の国のレガシーとして進んでいるのかなと思う。的を射る回答が出来ているかわからないけど、ホストタウンだからとか、それ以外の所は出来ていないという話ではないと思うので。もちろん身近に、学校のそばで選手が練習をしていたり身近には感じられるとは思いますが。そこに捕らわれることに僕は必要ないのではと思っている。僕は活用できたらいいなとは思っていますけれども。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。今実例としてあげていただきましたけれども、実際オリンピックに参加されてその経験の元に何かお気づきの点ございますか。はい、千葉委員。

〔千葉委員〕

施設のことですか。じゃなくて、それだけではなく。

〔福西委員〕

地域のこととか何でも。

〔千葉委員〕

オリンピックはもう建てるだけ建てて、あとは利用していない。建物に関してはね。違いますか。

〔朝原委員〕

多くはね。

〔千葉委員〕

利用しているのはあんまり私の情報では入ってきてなくて。選手村をマンションで売る

というのはよく知っているんですけど。プールに関してとか、ごっつい建てて、アメリカに関しては大学が使っている。他の施設とかはどうなんでしょうか。大きいものは、結構ほったらかしかな。ほったらかしではないけれど。

本当にそれに向けてガーッと進むけども、その後は燃え尽き症候群じゃないけど、何かもう何事もなかったかのように、違う風に進んでしまうような傾向がありますよね。そのオリンピックとかパラリンピックまで、めっちゃ頑張るけど、色んなことに関してですよ。建物だけではなく気持ちも。だけど大事なはその後のことも考えて色んなことを進まない。物も人の気持ちもだから。そこをやっぱりすごく大事にしなきゃ本当はいけない部分なのに、側ばかりが発展しますよね。それは私はすごく違和感があって、大事なのはやっぱり結果が残せなかった人の気持ちとか、ちゃんと前に進めるように何事も繋がるようにしないといけないところはあるなと感じますけど。

あまりメリットのある話はちょっとよくわかりません。デメリットの方がよく目についてしまって。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。

〔並河委員〕

天理市はエジプト柔道のホストタウンになっておりますので、発言させていただいてもよろしいでしょうか？

〔佐久間会長〕

お願いします。

〔並河委員〕

オリンピックの時だけ来ていただく形のキャンプ地というものは、最初からやるつもりはないと断言をされていて、根っこがしっかりあって、その先の関係性も見据えて行くことが非常に大事だという風に思っています。

そういった点でいうと、本市はですね柔道については国際的に多くの選手をこれまでも迎えていたという歴史がありましたので、そこはもう最初から柔道でいこうと。フランスのチームなども毎年指導者もそうですし、過去のメダリストも来られている。今回エジプトになったのは、偶然外務省勤務時代にエジプトに赴任していたという属人的なこともあったんですけども、先方の柔道界の中心的な方も天理を本当に評価していただいているので、是非オリパラをきっかけに天理との関係性をつくりたいのだと。こういうことをおっしゃっていただいていたのです。

去年は来られなかったんですけども、ホストタウンに決まってから、3年前からですね、

一昨昨年と一昨年と 2 年連続天理に来て、一昨年については天理に来てから世界選手権に出るといような流れも出来ました。市内でもエジプトについてそんなに関心が皆高かったわけじゃないんですけれども、子ども達も、じゃあどんな国なんだろうと勉強したり、JICAの方が実は青年海外協力隊に現地に行っている人がいるから、一緒に交流してみようとか、結構やはり行政も一緒になって広げて、スポーツ以外の点での交流にも繋がってくるというところもあります。ですので、単にそのとき来ていただくだけだと、おっしゃるように効果は限定的だと思うのですが、そこをしっかりと時間的にも政策的にもしっかりと幅を広げていくんだと意識を持って取り組むことが大事だと思っています。

〔朝原委員〕

多分、根木委員がおっしゃられていたとおり、ロンドンの文化交流とかスポーツ交流とか合宿誘致とか結構それを次のオリンピック、あるいはもっと先につなげようという動きが盛んになったと思うんですけれども。これこそ本当に大会がなければ選手は日本に来られないですし、頻繁に交流するのはすごく難しいので、これこそテクノロジーを使って何かオンラインなり何かわからないですけれども交流がスポーツだけではなくて文化で継承されていけばなと思います。

〔佐久間会長〕

レガシーと言えば施設以外でも、今、朝原委員のお話にもありましたけれども、継続的な文化交流、こういったものが教育の方に反映されていけば本当の意味でのレガシーに繋がっていくのではと思っています。だいぶ時間がオーバーしておりますが、前年度定例会が開催されなかったため、おそらく 2 年間分の色々な思いを語っていただく必要もあるかと思ひまして、もう少しお時間をいただきたいと思ひます。

最後の案件になりますが、資料 7 の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の奈良県開催に向けて説明を事務局の方、よろしくお願ひします。

〔木村スポーツ振興課長〕

それでは資料 7 をご覧下さい。奈良国体ですけれども、本来令和 12 年度開催を目指しておりましたが、コロナの影響で、今年度開催予定でありました鹿児島県が令和 5 年開催ということになりましたのでその後の開催予定県 1 年先送りという形になっております。

また、現在国民体育大会、いわゆる「国体」と呼ばれておりますが、令和 6 年度より「国民スポーツ大会」という名称に変わります。資料の 1 ページの方に招致経過について、記載のとおりですが 12 月 21 日に本県内々定を受けました。順調に準備を進めまして本番 5 年前の令和 8 年に内定、本番 3 年前の令和 10 年に正式決定を目指したいと思ひしております。開催趣意書の要点、あるいは本番に向けてのスケジュールは記載のとおりですけれども、来年度本審議会の皆様方にご協力いただきまして、奈良県が目指す国体の姿、奈良大会はどう

あるべきかというような所を先ず決めていきたいと思っております。そして、その内容は大会の基本方針の方に盛り込みたいと考えております。その後、準備委員会を立ち上げまして、大会運営に係る基本計画、あるいは主会場や競技会場の整備、宿泊輸送計画などの準備を進めていき、令和10年には実行委員会を立ち上げて、本番を迎えたいと思っております。

2ページ目ですけれど、奈良国体を開催することにより奈良県スポーツの持続的な振興とを目指したいと考えております。そのために国体を契機としたスポーツ振興の基盤・仕組みづくりとしまして、スポーツをする・観る・支える人づくり、地域や競技団体・総合型スポーツクラブなど学校などの組織づくり、そしてスポーツをする施設・機会などの環境づくりに取り組んでいきたいと思っております。また、国体を契機とした取組としまして、先ほど並河委員からのご意見もありましたように例えば天理と言えば「ラグビー・柔道・ホッケー」というような事が思い浮かびます。このようにスポーツをする人・支える人というのが地域に根付き、次世代の育成に繋がる。また、実施競技も地域に根付き、地域のスポーツ振興の基盤となる。そういうことを目指していきたいと思っております。そして最終的に奈良県スポーツ推進計画に掲げております、「生き活きと安心して健やかに暮らせる健康長寿の奈良県」というものを実現させたいと考えております。本日は今説明しましたことの実現に向けまして、いわゆる国体を契機として奈良県はどのような取組をしていくべきかということをご意見頂きたいと思っております。よろしく申し上げます。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。ただ今の説明に関しまして提言等、これまでの多くの開催県の取組などネット等でもありますが、どうでしょうか。

〔田中委員〕

前回の国体の時にサポート体制につきまして、今でいう JSPO のスポーツドクターが整備されたんですね。前回、私が医師になる2年ぐらい前なんです。その頃に JSPO のスポーツドクターになられている先生方がかなりのご高齢です。それで肅々と若い先生方をご推薦してなっただいていただいているんですけれども、国体に向けてある程度、特に女医さんの数が少ないので。当然半分は女性。選手が女性なので、今、頑張って婦人科の先生とかにもお願いして女医さんになっていただいている。県からもそういう感じの、アプローチをある程度いただければというふうに思います。

〔佐久間会長〕

医学的な面でのサポートというところのご要望でしたが、他に是非こういった本県の、奈良県開催に向けての提言等ございましたらお願いしたいと思っております。

〔根木委員〕

今、これスポーツ大会って、あの国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会となって大会二つですよ。オリンピック・パラリンピックと同じようにイメージしてもらったらいと思うんですけど。歴史的なもの。もともと 1965 年ですよ。東京オリンピック・パラリンピックが開催されて翌年から、それまで障害者の人たちのスポーツ大会はなかったんですよ。翌年から出来たのが全国身体障害者スポーツ大会というもの。身体障害者だけだったんですよ。それが 2001 年から身体というのがぬけて、知的障害の人たちの大会も別で開催されていたんですけども、障害の中で分かれているのはおかしいとなり、ようやく、議論はされていたんですが、2001 年からようやく全国障害者スポーツ大会というものになりました。

それで大会が一つになったから、僕は個人競技で奈良県選手団の中で出場させてもらったのを覚えています。その流れで行くとこれからまた、障害者のスポーツの考え方みたいなものを大きく、後にこれからどんどん変わっていくのではないかと思います。もっともいろいろな障害の幅も増えてくるし、それこそ国民スポーツ大会と障害者スポーツ大会を分けるのか、分けないのかということもおこる可能性はあります。でもカテゴリーであったりとか、今もオリンピックをいろいろ言われる人もいるけれども、朝原さんの走っているリレーや 100 メートルであったりとか、色んなものも違いの中の 1 つで分かれるというのはやっぱりあるのかなと思ったりするんですけども。

現状では、国民スポーツ大会後の 3 日間開催するっていうのが、レギュレーションだと思う。これはかなり変わるかも知れない。そういうものよりは、さっき言った奈良県の目指すもの、スポーツで日本の中で一番大きいスポーツ大会を開催するにあたって、目指すものという言葉の中でいうと、東京が 2013 年に、初めて「スポーツ祭東京 2013」というネーミングを付けたんです。その後ろに国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会っていうネーミングにしたんですよ。それから以降結構、いろいろな障害者スポーツ大会の方には行くんですけども、大体のぼりが、今までだったら国体と障害者スポーツ大会が全く別のものだったんですけども、一つで作って、大会マスコットも全部同じものに統一されて、アピールしている。これは一つの大会なんですよということをよりアピールしているものになっている。だからそういう観点で、奈良県が言っているまさしく「だれもがスポーツをする」という環境であったり、そのことをこの大会を通して盛り上げていきたいと思います。ようなものが僕は最も大切に出来たらなと思います。

歴史とか次はどうなるべきかについて発言しました。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。特に今回目指す方向性はもちろんこれですし、何のためにやるのかという所はまさに国体後のことも書いてあります。本県のスポーツ推進計画これを具現化するためにもやっていかなければいけない問題だと思っています。そこでは人づくり、

組織づくり、環境づくりと大きくはこの 3 つに分けられますけれども、特に先ほど指導者の問題もありましたが、本県は選手をどのように育成していくのか、指導者を含めてそういった面でもこれからの検討が必要になってくると思います。組織づくり、環境づくり、特に障害者の件についてはバリアフリー的な問題もまだまだ十分ではないのではないかと。そういう点もあると思います。

〔山口委員〕

10 年後の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の奈良県開催、おめでとうございます。2007 年に兵庫県で「のじぎく国体」が開催された 10 年前に、基本構想を議論したことを覚えています。その時提案したのが「する・みる・ささえる」でした。資料の 2 ページ見せていただき、取組の 3 つの柱「人づくり・組織づくり・環境づくり」、この 3 つの柱、わかりやすいと思います。目指す方向性が、「奈良県スポーツの持続的な振興」というのがちょっと具体的に見えにくいところがある感じがします。

今、国際的にスポーツ振興とか、健康増進は「アクティブ」という言葉がキーワードで、アクティブライフとかアクティブシティとか、「動きやすい・活動しやすい」まちづくりをしようというのが、世界のトレンドなんです。例えば京都市の市営地下鉄に行きますと、階段の所に消費カロリーが表示されてあります。で、パッと思わず動きたくなるようなまちづくり、これから奈良県はおそらく、歩きやすいですか、サイクリングしやすいとか、スポーツをしやすいとか、具体的に欲しいなという感じがしました。

今回資料を見せてもらって、サイクルツーリズムがずいぶんいろんなところで広がっています。これは嬉しいなと思っています。スポーツしやすいということを考えると、「奈良ゆかりのスポーツ」、こういったものを大事にしていく。国体とかオリンピックもそうですけれども、これが大事だと思いますので、おそらく、柔道とかラグビーとかホッケーも昔からありますよね。そういったスポーツと観光が一緒になってくると、サイクルツーリズムがベースになり、観光スポーツ都市やまちが融合していくという夢もあるかなと思います。

〔佐久間会長〕

ありがとうございます。まだまだご意見あるかと思いますが、最後に福西委員お願いします。

〔福西委員〕

質問と希望も兼ねて。先ほどレガシーということで質問させていただいて、それに併せて千葉委員と田中委員からコメントはいただいたんですけども、多分、国民スポーツ大会を実施されていく上で、多分何らかの形で施設というものが出てくると思います。その施設がどのようなものかというのが 1 つ目の質問。そこはもう別に形とか、陸上競技場をつくるだとかそういう質問ではなくて、今後その施設を使って、先ほど言われたような世界的な

イベント・全国大会をするようなイベント、目的の施設を今後考えられるのか、それとももう少し落としこんで、実際にこれから地元で使われる方々、せめて関西一円、奈良県一円位のそういう施設をつくっていくと考えておられるのか。

あと、希望もなんですが、奈良医大の田中委員からお話をさせていただいて、私は小・中学生のスポーツの指導を多くしてきているのですが、やはり最近やり過ぎであるとか、怪我をしてから直すお医者さんは沢山我々も知っているのですが、本当の意味での予防の観点、これはもう私の経験上、指導者に何度言っても、直ぐにはわかっただけでない。保護者のクレームから初めて手を出さない指導者が出てくるということで、そういう方へのご理解をいただけるような方法をとりたい。スポーツ施設の話に戻るのですが、折角そういうスポーツ施設が何らかの形で出来るのであれば、予防という観点からそのスポーツ施設の近くに奈良医大の出張所が出来るだとか、そんなことも含めてそこで予防の研究施設であったりとか、先ほど言われた女性であったり若い先生方が研究するような場と一緒に出来るようなものも考えていただければ、ジュニア年代などこれからの選手達にもいい結果も出てくるのではないのか。答えられる範囲で答えていただければと思います。

〔木村スポーツ振興課長〕

やはり国体に向けて、奈良県のスポーツ施設を一定整備していく必要があるのは認識しており、昨年頃から検討はしております。具体的に今どの場所に、どの規模のものをつくるということは決定しておりませんが、確かに考え始めたのは国体を機にとはあるのですが、先ほどオリンピックのレガシーの所でもございましたが、国体のためだけに作るということは毛頭ございません。むしろ国体が終わった後、県民の皆様がいかに使っていただけるかというようなことが重要だと思っております、国体後全く利用されないような大きなものだけを作るということではないと思っております。

その単に競技場だけがあるわけではなくて、その周辺にそのスポーツ施設に関連したような施設として、例えば医科学センターでありますとか、合宿所のようなものも併設して考えていきたいと思っております。

〔佐久間会長〕

ありがとうございました。まさにレガシーの一環でもあるんですけども、福西委員それから課長からの説明もございましたけれども、私も是非そういった医科学センターにはスポーツの奈良県の選手の活躍を含めたスポーツの殿堂のようなものが出来たらいいなと思います。これは私が個人的にずっと願ってきたことでもあります。

以上をもちましてスポーツ推進審議会終わりに致します。この後事務局にお返しいたします。

〔吉田部長〕

ご審議にご協力頂きまして、また大変貴重なご意見を頂きましてありがとうございます。本日はWEBでの開催ということで、WEBで参加して頂きました委員の皆様方大変ご発言しづらかったかもわかりませんが申し訳ありません。ありがとうございます。本来でしたらお一人、お一人の意見に私いろいろ言いたいこともございまして、聞いて頂きたいこともいっぱいあるのですけれどもこれ以上しゃべっていたら駄目なのでまたの機会にさせていただきます。

ただ、本日頂きました意見、特に幼児向けの運動プログラムにも言及して頂きまして、小さいお子様からそして、本日ご議論になりましたビジネスパーソンあるいは子育て世代をどうするのか、あるいは千葉委員のおっしゃいました全く運動に興味のない方、あるいはゲームに没頭しているお子さんをどうするか、あるいは高齢者の方に対してどうするか、あるいは地域的な問題にどのように対応していくのかと言ったこと、また障害者ということで分ける必要は私全くないと思っております、障害者も一緒になってやっていくべきだと思っております。そのような観点から10年後に国体を迎えるわけです。国体に向けて全力でやるこれは当然のことですけれども、それだけではなくて、国体を開催するという一つのきっかけ、これを機に今委員の皆様方から頂戴いたしました全ての課題についてどのように取り組んでいくのかというのを改めてしっかりと議論していく、組み立てていくということが必要になるのではないかなと思っております。

国体は2巡目。奈良県は最後の方でございます。最後の方は最後なりに頑張っていきたいと思っております。繰り返すようですけれども、そういう面で行きますと、国体に向けて頑張るのではなくて、国体を機に色々な取組を改めてしっかりと考えていきたいと思っております。次回につきましてはそういった面を中心にご意見を賜ればと思っております。

本日は長時間にわたりましてありがとうございます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

以上の事項は、事実と相違ないことを証明する。

令和3年4月7日

議事録署名人

 松下 直樹

議事録署名人

 福西 達男

※署名押印された原本は、別途保管